

議員提出議案第25号 小林正則市長に対する不信任決議について、佐野郁夫は賛成の立場で討論いたします。

まず、最初に、私は、二元代表制の一翼を担う議会の一議員として、もう一方の一翼を担う執行機関の長である小林正則市長を信任しないことを宣言します。議会が多数決でこの不信任決議を否決したとしても、この私の宣言に責任を持ちたいと思います。

その理由ですが、市長は議会の場において、虚偽の発言を行い、そのことを認めず、陳謝もしませんでした。議会への冒涇であり、これ以上市政を任せるわけにはいかないと判断したからです。だれかが強制したわけでもなく、自ら、多選の弊害を語り、「3期12年を限度とする」と議会という公の場で多選自粛を宣言しておいて、それを撤回することもなく、謝することもなく、責任をとることもなく、反故にすることは、議会及び市民に対する侮辱ともいえる行為だからです。

このように思わない議員がいるとすれば、私は議員を止めた方がいいとさえ思います。特に、これまで市長を支えてきた議員のみなさん、市長になぜ正々堂々と、議会で発言の撤回、陳謝させ、次の選挙で信任を得ればよいという考えと行動を促さなかったのでしょうか。

私は、何も、4期やってはダメだとか、4期16年は長すぎるといっているのではありません。それは、市民が選挙で判断すること。そして、政治家は、自身の進退は自ら判断して決めればよいのです。しかし、今回は、市長ご自身が、自らの進退を判断し、議会という公の場で高らかに宣言した事実があります。人間だれでも失敗はあります。失敗しても、やりなおせばいいと、常々小林市長はおっしゃっています。あの時（12年前）は、ああ言ったが、今は状況もちがう、素直に謝って、改めて選挙で市民に信任されるよう挑戦しようというのなら理解はできます。そうしなかったのはなぜなのでしょう。自らの過ちを認めない態度が許せないのです。誠実でない人が市のトップにいることが許せないのです。

これまでの市長の市政について、私は様々な失政ともいえるような市政運営の問題があったと思っています。例えば、選挙公約に掲げた都市計画税減税は公約通りやりませんでした。仲町テラスは当初予算の倍の10億円近くもかけ、使い勝手が悪いと評判です。旧仲町公民館の土地売却もうやむやです。また、突然の花小金井南市民広場売却といたり中止したり、花小金井南中の横の土地を高い価格で買い、何年もほったらかし。さらに、突然の花小金井武道館廃止決定がありました。住居表示審議会答申の棚上げ、公約のプレイパークはプレイリーダーのいない広場にすり替わり、住民投票に50%規定を付けた条例提案は大きな問題となりました。何もやらない前代未聞の公約の一つがごみの無料化堅持。そのためごみ減量が遅れ、手数料、使用料収入は多摩地区で最下位。受益者負担の見直しも結局棚上げ。借金ばかり返し、投資的経費も多摩地区では下位。おかげで職員の仕事が少なく、経験や能力も育たない。事務系副市長2人制も無駄だったのではないのでしょうか。防犯カメラの設置は消極的。黒塗りの市長公用車の廃止も公約で掲げましたが、結局は割高のリースで議長車と同じ車種で限りなく黒に近い濃紺の車に乗っています。校庭の芝生化は、予算を付け実施し、議会答弁で「推進する」と言っていながら、市民を前にしたタウンミーティングで「俺は芝生化は反対だ」と言うので、議会でこのことを質したら、「確かにそう言った」と言い、1時間も議会が空転し、挙句に発言の取り消しをしたこともありました。これらの問題は、あくまで個人的な見解で、反論は当然あるかと思いますが、でも、これら市政運営の問題を理由に「不信任の決議」としてとりあげようとは思いません。これらは市民が選挙で判断すればいいんです。しかし、繰り返しになりますが、今回の発言の虚偽とその責任をとらない一連の行為については、議会議員として断じて許すわけにはいきません。これは議会の存在意義に関わる問題です。

以上を申し述べ、本議案に賛成の討論といたします。